

香港の映画産業

2008年3月27日

概要

- 香港は世界でも最大級の活気溢れる映画産業を有しています。2006年の時点で住民1人当たりの映画製作数はアジアで1位、世界でも2位でした。
- 香港映画は世界のマーケットでも注目を集めています。ハリウッドは権利の買い取りや配給だけでなく、香港映画のリメイク権の獲得にも興味を示しており、香港映画界の人材はアジアと西洋両方の映画界で名声を獲得しています。
- 香港は世界でも最大級のテレビコンテンツ・映画コンテンツの輸出元です。香港には映画制作、テレビ番組制作の巨大な基盤があり、アジア地域における近年のケーブルテレビ、衛星テレビの急速な普及によって、魅力的な売り手市場が形成されています。香港の映画やテレビ番組は、韓国や台湾、東南アジアの映画市場で一定のシェアを勝ち取っており、また多くの映画製作者が現在、北米の映画市場への進出に取り組もうとしています。
- 香港のオーディオビジュアル産業は、経済貿易緊密化協定（CEPA）によって中国本土のエンターテインメント市場への優先的進出権を得ています。このため香港で共同製作された映画やテレビ番組は本数の制限なく中国本土で展開できるようになっています。

産業データ

映画およびその他のエンターテインメント・サービス	2007年9月
団体・会社数	2,953
従業員数	19,333

出典：「四半期雇用統計報告書」政府統計局

-	2007
香港制作映画作品のリリース数	50
香港制作映画の興行収入（単位:100万米ドル）	30
興行収入総計（海外作品を含む、単位:100万米ドル）	133

出典：映画産業協会

サービスプロバイダ

1970年代後半に出現した独立系の映画製作会社は、支配的な既存の大手映画会社に対抗していましたが、現在ではその多くが大手の子会社となっています。

香港の映画会社の多くは興行会社と直接契約を結び、収益分配方式で配給しています。またビデオ等のレンタルや販売、そしてテレビ放映といった劇場公開以外のリリースに関わる諸権利は配給会社に販売されます。また外国映画の香港での展開を専門とする配給会社も存在しています。

香港には映画産業を代表する存在として、香港映画製作発行協会（MPDA）と映画産業協会（MPIA）という2つの協会が存在しています。

スクリーン・ダイジェストの2006年の統計によると、住民1人あたりの映画製作本数で、香港はアイスランドに次いで世界2位となっています。

輸出

輸出	2006
オーディオビジュアル作品制作および関連サービス（単位:100万米ドル）	257
輸出サービスに占める割合（%）	0.4

出典：「2006年度香港サービス貿易統計報告書」政府統計局

映画配給

香港は世界最大の映画輸出国/地域のひとつです。香港市場は比較的小さいため、映画産業はおおむね海外での収益に依存しており、その大半はアジアでの収益となっています。

香港映画は国際的な映画市場で評価を高めています。ハリウッドは香港映画の劇場配給権だけでなく、リメイクの権利獲得にも積極的です。実例として 2007 年度のアカデミー賞で 4 つのオスカーに輝いた『ディパーテッド』が挙げられます。この作品は 2002 年の香港映画『インファナル・アフェア』のリメイクです。また 2008 年にハリウッドが製作した『アイ』は 2002 年に香港のバン兄弟が製作した『the EYE 【アイ】』のリメイク版です。

香港はその特殊なステイタスによって、中国本土と西洋の橋渡しをし、また中国の映画ファンに対して海外の窓口として機能しています。香港の映画スターはアジアと西洋両方の映画市場で知名度を確立しています。香港のトップ女優マギー・チャンは 2004 年のカンヌ映画祭で最優秀女優賞を獲得。そのほかジョン・ウー、チョウ・ユンファ、ユエン・ウーピン、ミシェル・ヨー、コリー・ユエン、サモ・ハン・キンポー、ロニー・ユーなど、アジアと西洋の両方で成功を収めた香港出身者は数多くいます。例えば映画『LOVERS』には香港の映画関係者も多く参加しましたが、日本では配給権に 1000 万米ドル、北米では 1380 万米ドルの値がつけました。

大手の映画会社が独自の配給部門を有しているのに対し、小規模の独立系映画製作会社は海外での展開を配給会社に頼らざるを得ません。海外に売り込むためのマーケットは主にロサンゼルス、カンヌ、ミラノの 3 箇所、プロデューサー、配給会社、バイヤーが集って商談を重ねます。香港も 1997 年以降は毎年フィルムマーケットを開き、アジア地域での映画配給拠点としての香港をアピールしています。2007 FILMART には 453 社が出展し 4094 人のバイヤーが集まりました。

テレビ番組

香港のテレビ局は収入の多くを海外のマーケット、特に中国語圏のマーケットから得ており、番組によっては中国語以外の言語の視聴者をターゲットにするために吹き替えを行っています。香港のテレビ局は番組のライセンス販売やパッケージ化された番組コンテンツの視聴料などによって収益をあげていますが、現在では衛星配信や放送権販売も重要な収入源として認識されるようになりました。

中国は世界最大規模のテレビ市場を抱えています。テレビとケーブルチャンネルの普及

により、中国本土では上質の番組への需要が大きく膨らんでいます。しかし政府の規制が未だに厳しく、香港のテレビコンテンツはまだ本土で広く行き渡るには至っていません。とはいえ香港のテレビ局は広東省で数百万の世帯に向けて番組を放映する権利を得ており、また CEPA の枠組み内で本土と香港の共同製作によるテレビ番組が作られたこともあります。香港のテレビ業界にとって本土でのビジネスは大きなチャンスとなることでしょう。

業界の発展と市場の概要

デジタル化とマルチメディアへの転換

エンターテインメント・メディア産業に多大な影響を与える要素のひとつに、オーディオビジュアル・コンテンツの急速なデジタル化が挙げられます。これによりコンテンツの製作のみならず配信方法にも変化が生じています。香港は周辺地域の中で最も優れたデザイン能力を有し、マルチメディア対応を遂げており、例えば香港に拠点を持つデジタルアニメの製作会社のイマジ・インターナショナルはハリウッドの大手ドリームワークス SKG の発注を受け、大ヒットした CG アニメ映画『シュレック 2』の制作に携わりました。イマジはドリームワークスが製作したテレビ向けのアニメ・シリーズ『花嫁の父』にも協力、同作品は 2004 年 8 月より米国の NBC でゴールデンタイムに放送されました。その他『少林サッカー (2001)』、『カンフーハッスル (2004)』など CG を駆使した香港映画も制作され、画期的な視覚効果でヒット記録を塗り替えました。両作品は香港のセントロ・デジタル・ピクチャーズの制作です。

香港・本土間の経済貿易緊密化協定 (CEPA)

既存の CEPA 規定には、香港のオーディオビジュアル・サービス産業に対する市場の開放など重要な指針が含まれており、これにはテレビドラマの製作なども含まれます。CEPA によって映画館の建設や改装を行う香港の企業に対し、複数の場所で複数の映画館の建設・改装を許可するなど、規制緩和が実現しています。2007 年には香港のゴールデン・ハーベストが中国でもトップ 10 に入る深圳の劇場に投資しています。

2005 年後半には日本最大の上場コンテンツ・プロバイダである角川ホールディングスが香港のインターコンチネンタル・グループ・ホールディングスの株式の過半数を取得、CEPA を通じた中国本土での映画配給など、市場進出を目指しています。

香港と本土で共同制作された映画作品の広東語版は広東省で配給・公開することが可能

です。また香港と本土で共同製作されたテレビ番組は、年間輸入制限の対象外となります。

2008年1月に施行されたCEPA Vの枠内では、香港と本土で共同制作されるテレビドラマの企画書に求められる条件も緩和され、それまでドラマの各回につき中国語で5000字以上のストーリー概要を用意する必要があったのが、1500字あれば認められるようになりました。これによって製作会社は時間や事務的なコストを削減でき、その結果プロダクションの過程を合理化しつつ柔軟に動けるようになりました。

現在のアクセス	CEPA 枠内での香港のアクセス
<p>映画館</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海外の企業はマイノリティ所有のジョイントベンチャーという形でのみ映画館の建設・改装が可能。 ● 上海、北京、広州、成都、西安、武漢、南京という7つのモデル都市では、ジョイントベンチャーの映画館の場合75%まで外国企業が出資できる。 	<p>映画館</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 香港企業は完全子会社を設立し、それぞれに複数の場所で複数の映画館を建設・改装し、映画公開をすることが可能。
<p>共同製作</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海外クルーと本土クルーの割合・・・50：50 ● 映画の舞台は中国でなければならない。 	<p>共同製作</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 香港と本土で共同製作する映画の広東語版を広東省で配給・公開することが可能。
<p>輸入映画</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 収益分配方式で輸入する外国映画は年間20本まで。 ● (香港映画は外国映画として扱われていた) 	<p>輸入映画</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 香港で制作される中国語の映画は年間輸入制限の対象外。 ● 香港の映画制作会社が映画の著作権の50%以上を所有しなければならない。* ● 香港で制作され、中国電影集团公司 (China Film Group Corporation) の映画輸出入公司 (Film Import and Export

	<p>Corporation) が単独で輸入する映画の広東語版は、広東省で配給・公開することが可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> • (*当該作品の主要関係者の 50% 以上は香港の住民でなければならない。主要関係者とは監督、脚本家、主演男優、主演女優、助演男優、助演女優、プロデューサー、撮影監督、編集者、美術監督、衣装デザイナー、アクションコーディネーター、サウンドトラック作曲者などを含む)
<p>テレビ番組</p> <ul style="list-style-type: none"> • 中国—海外制作会社の作った本土向けテレビ番組は、その納品テープを国家広播電影電視総局 (SARFT) が確認し承認する。 • 承認を受けた数少ない輸入番組・共同製作番組は、本土のテレビ局でゴールデンタイム (19:00-22:00) に放送される。 • 共同制作されるテレビドラマのエピソード数は 30 話以内でなければならない。 • 共同制作される連続ドラマの場合、各エピソードにつき中国語で 5000 字以上のストーリー概要を添付する。 	<p>テレビ番組</p> <ul style="list-style-type: none"> • 香港のアーティストまたは制作チームの参加した本土向けテレビ番組は、その納品テープを各省の ラジオ・テレビ管理部門が確認し承認する。 • 香港と本土で共同制作したテレビ番組は、本土で制作されたテレビ番組と同様に放送・配信が許可される。 • テレビ番組が共同制作となる条件： <ul style="list-style-type: none"> ○ クリエイティブスタッフ (監督、脚本家、撮影監督、主演キャスト) の 1/3 以上が本土出身であること。 ○ 製作会社の 51% 以上の株式を本土の企業が出資していること。 • 香港と中国本土で共同制作するテレビドラマのエピソード数の上限は、本土で制作されるテレビドラマと同一となる。 • 2008 年 1 月以降、香港と本土の番組制作会社で共同制作されるテレ

	ビドラマの企画書には、中国語で 1500 字以上のストーリー概要を添 付すればよいことになった。
--	--

2008 年 2 月末の時点で、香港政府は申請したオーディオビジュアル企業 24 社のうち 23 社に HKSS 認定を発行。